

*****《入賞・入選者の紹介》*****

《重奏の部》(出場17 団体)

☆入賞第1位



出場番号 17. Memery 「Tango pour Claude」
作曲: Richard Galliano 編曲: Memery

☆入賞第2位



出場番号 14. のりゆみ 「Tarantella」
作曲: Vaclav Trojan

☆入賞第3位



出場番号 1. セレーノ 「ビバルディによる協奏曲
第2番イ短調 BWV593 第1楽章」
作曲: J. S. バッハ 編曲: ラルフ・ユング

☆入選



出場番号 12. トリオ 「朝は…」 『「道化師」より
メドレー リトル・リリヤル・シーン カウ・アウト スケルツ』
作曲: カパルプスキー 編曲: 松永勇次

☆入選



出場番号 5. スフル・スフレ 「クロードへのタンゴ」
作曲: リシャール・ガリアーノ 編曲: 長見摩耶



《小アンサンブルの部》(出場11団体) ※入賞第1位、及び入選は該当なし

☆入賞第2位

☆入賞第3位



出場番号10. アミーゴ 「Nocturna」
作曲: Julian Plaza 編曲: 岩崎宏之

☆入賞第3位



出場番号2. ばつは亭
「2つのヴァイオリンのための協奏曲」
作曲: J. S. Bach 編曲: 田代和也



出場番号11. プチ・マルカート
「ボルブタ」
作曲: マルソー 編曲: 青山義久



《合奏の部》(出場19団体)

☆入賞第1位



出場番号14. 東京アコーディオンアンサンブル 「Scherzo」
作曲: Mussorgsky 編曲: 菊池幸夫

☆入賞第2位



出場番号17. 東京アコーディオン研究会 「ジェラシー」 作曲: Jacob Gade 編曲: Albert Bunner

☆入賞第3位



出場番号8. 風のアンサンブルB 「茶色の小瓶」 作曲: ジョセフ・ウィナー／グレン・ミラー 編曲: 川口裕志

☆入選



出場番号13. 風のアンサンブルA 「悲しき天使」 作曲: ボリス・フォーミン & G. ラスキ
編曲: 川口裕志

☆入選



出場番号11. 川越アコーディオンサークルたんぼぼ 「小さな喫茶店」

作曲 : F. Raymond 編曲:松永勇次

☆入選



出場番号15. アンサンブル小川 「ポエマ・タンゴ」 作曲 : マリオ・メルティ 編曲:井上正志

《ゲスト演奏》 原田 忠

♪ 演奏曲目 ♪

- 1.All of me(ジャズ)
- 2.Blue in Green ブルー・イン・グリーン(ジャズ)
- 3.白いす(オリジナル)
- 4.ふらんすのワルガン(オリジナル)
- 5.No Words(ジャズ Avishai Cohen)
- 6.星に願いを
- 7.今日の日はさようなら
- 8.リベルタンゴ(アンコール)



《審査の様子》 合奏の部



審査員紹介(敬称略) 左から三浦みゆき 山岡秀明 柴崎和圭 大田智美 北川翔(合奏で指揮をする川口裕志、松永勇次の2名を除く他5名で審査されました)

《結果発表と講評の様子》

■重奏の部(審査委員長:大田智美氏)…重奏に関しては、全体的なレベルが今までよりも非常に上がったというのが審査員全員の一致した意見です。若い方々や急速に力をつけてきた上手な方々がどんどん出てきたというのももちろんですし、今まで長い間、こつこつアコーディオンを弾いてきて、実力を積み重ねてきた方々のレベルも確実に上がってきたというのも審査員の意見です。



それから重奏のカテゴリーというのは、人と合わせてどれだけ音楽をつくれるかというのが大切になっていまして、うまい人が何人か集まってやったらうまくいくというものでないのです。みんなで音楽をどういったふうにつくっていくかといった姿勢や、弾いている全員が自分のパートだけではなくて音楽の作品全体をどれだけか把握しているかがとても重要になってくと思います。

また今回重奏の部に関しては、演奏だけでなく、衣装とか譜面台とかいろいろ皆さん気を配っている方が

◇表彰の様子(賞状は、大田智美審査委員より授与)



入賞第1位「Memery」



入賞第2位「のりゆみ」

多く見られまして、他人に聴いてもらうとか、コンクールという場ではあるんだけど、舞台演奏するという、そこに音楽に対する、それから舞台に対するすごく真摯な姿勢が見られてとても良かったと思います。

◀表彰され喜びの入賞、入選団体の皆さん。



入賞第3位「セレーノ」



入選『トリオ「朝は…」』



入選「スフル・スフル」

■バンド/アンサンブルの部(審査委員長:柴崎和圭氏)

今回は全体的に参加団体、人数共に多いのですが、バンド/アンサンブルの部に出場された団体が今回凄く多くなりまして、これは嬉しい悲鳴じゃないかなとは思っています。



審査委員会での先生方の意見を述べますというんな楽器が入ってとても楽しい部ではないかというお話が出ていました。さらに、いろんな楽器が入りますので、大事になってくるのはアンサンブルなんですからピッチなんですね。やはり、高い低いいろんなのがありますと、もちろんアコーディオンだってMMでトレモロ付けてるじゃないかということはあるんですが、それはまた別な問題でありまして、やっぱり楽器同士がある程度一定の線も持って合わせる。オーケストラだってこれが崩れますと、なんだか～になってしまうんです。で、これが今回目立ってしまったんです。

バンドとしてまとまってってということではすごく良かったんです。だから今度はピッチ感を考え乍らまた、その楽器の特徴をつかんだ演奏、またそういう演出をしていただくともっと味のいい演奏になるんじゃないかなということが出ていました。楽器の特性を生かした、バランスを考えた曲作りですね。

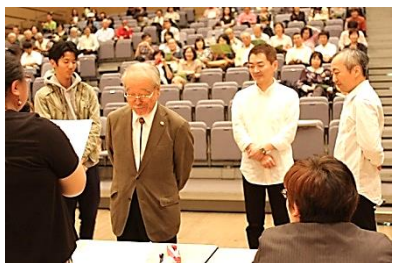
それから、今回は東北から来ていただいた方、宮城、広島いろいろいらつやいましたけれど、遠くから楽器を持って交通費を掛けて頑張ってこられるってすごくうれしいなと思います。

今回1位がなかったのは、そういう意味でまだアンサンブルを芸術的に作り上げていくにはどうしたらいいのかって課題を残したということで1位は入ってこれませんでした。なので、ぜひ挑戦してまた次回もいい演奏を聴かせてください。

◇表彰され喜びの入賞団体のみなさん(賞状は、柴崎機和圭審査委員より授与)



入賞第2位「アミーゴ」



入賞第3位「ばっは亭」



入賞第3位「プチ・マルカート」

■合奏の部(審査委員長:山岡秀明氏)



合奏の部の講評を短く触れます。今回は非常にたくさんの団体が出ました。そして大変な熱戦でございました。まず、合奏といっても1人ひとりの実力が本気で出ているアップしているっていうのが今回の素晴らしい、全体のレベルアップにつながったと思います。合奏するにもやはり一人ひとりが真剣勝負で毎日毎日練習をしながらそして合奏の曲もパートも完璧にできるようになるように練習の積み重ねが今日の日になったと思います。そして、いろんな他の楽器の方も参加していただいております。いろいろとアコーディオンと合わせるには音程、ピッチのこと、これは大変難しいところですが、そのところをこれからもバンド/アンサンブルの部と一緒にレベルアップしていくというつもりで、また打楽器、ピアノの方も応援よろしくお願いいたします。



◇表彰され喜びの入賞・入選団体のみなさん(賞状は、山岡秀明審査委員より授与)



入賞第1位
「東京アコーディオンアンサンブル」



入賞第2位
「東京アコーディオン研究会」



入賞第3位
「風のアンサンブル B」



入選「風のアンサンブル A」



入選「川越アコーディオンサークル
たんぽぽ」



入選「アンサンブル小川」

■特別審査委員、北川翔氏の講評



皆さんお疲れさまでした。僕は、専門はロシアの民族楽器のバラライカという楽器なんですけれども、ロシアではアコーディオンをバラライカと同じようにリズム楽器科というところで学びます。ロシアでは「バヤン」という楽器なんですけれども演奏していたのをよく覚えています。そして今でも、隣にいる大田智美さんとよくデュオでコンサートやったり、オーケストラでアコーディオンの方たちと交流をしているんですけれども、こんなにたくさんの団体のかたの、ひとの、人数が今日この会に参加している方の多さにすごくびっくりしています。一つひとつの団体のレベルの高さももちろんなんですけれども、こんなに多くの方がアコーディオンにすごい情熱をささげているのは僕に関して言いますとすごく羨ましい限りでございまして、ロシアの民族楽器のバラライカはまだマイナーな楽器なんですけれども負けていられないという気持ちにならせていただきました。

次回は、バンド/アンサンブル部門で、僕も演奏するか、合奏部門でオーケストラで指揮をとるかちよっと考えてみたいと思いますのでまたよろしく願いいたします。

■審査委員初参加、三浦みゆき氏の講評



私はアコーディオンとイングリッシュコンサーティーナという楽器を演奏いたしますが、実はコンクールの審査員っていうのは初めてではございませんで、ピアノのコンクールの審査員を20年近く続けておりました。まあ、どれが本筋かと言われればアコーディオンということなんですけれども、とにかくこの参加人数の多さに私はびっくりしてしまいました。これはアコーディオンの今後は非常に明るいなどひとえに喜んで今日の時間を過ごさせていただきました。レベルもとても高いので、もうびっくりしてしまいました。また皆さんとお会いしたいという気持ちであります。どうもありがとうございました。

■総合審査委員長、松永勇次氏の感想

実は私が最高年齢なんですよね。(笑) 気持ちは若いですけど、川口先生と私は1回目から休みなしで続けてきています。それで、前回私、確か関東コンクールの変わり目になっているんじゃないかなと申し上げたと思



います。それが今回ちょっと変化が見えてきているということがすごくうれしい。広がっているということ質が上がっているということと両方がね、それが非常にうれしいと思います。これは先生方がみんな感じておられると思います。

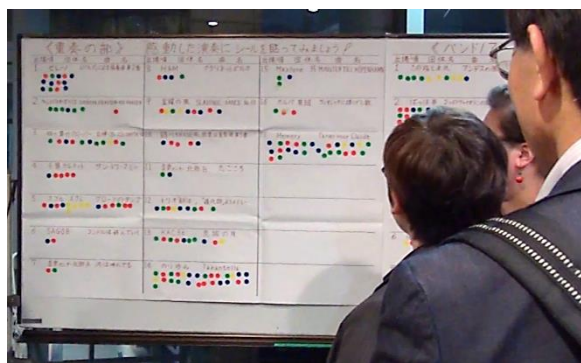
それからもう1つ嬉しかったことは、実は私が最高齢になっちゃったんですけど、木下そんき先生と中山英雄先生が、お元気で指揮をして参加して下さいました。そのことは私も学んでやっていきたいと思っています。

それからもう1つ感慨が深かったのは、すでに他界されておりますけれど青山義久さんの作品アレンジにお目にかかって、しかもそれを心を込めて演奏しているという姿に心を打たれました。それから横浜の石居庸介さんですか、そういう譜面にもお目にかかるというのはこの場の良さじゃないかなと思います。そういう先輩方の積み重ねが今に至っているとこういうふうには私は思っておりますので、ぜひ次の発展を世代交代を上手くやりながら作っていきたくて思っております。

オリンピックで金メダルや銀メダルを取るだけがいいんじゃないけどもっと素晴らしいものを皆さん感じていらっしやると思いますけれども、それと同じことを感じます。そうなればいいなと思いましたのでこれからも皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っています。今日は皆さんご苦勞様でございました。



良かった演奏に、感動した演奏に、シールを貼ってみましょう！コーナー



前回(独奏の部との隔年開催なので2年前になる)パネルにシールを貼る形で、「客席からの評価」を試みてみました。好評だったので一昨年に続き今回も実施してみました。

前回、用意する枚数を間違えて、渡せたのは一人に3枚でした。今回は5枚綴りのシールをプログラムにテープで貼って渡しました。

結果は写真の通りですが、見にくいので数字にしてみました。貼られたシールの合計が536枚でした。(前回232枚/約3分の1が参加)プログラム配布数(370)から単純に計算すると29%となります。重複していた方もいるので、今回も前回同様会場の約3分の1の方が参加したことになります。

重奏の部(プログラム順)

1.セレーノ	13枚	10.鶴川KRANE(有)	5枚
2.ウインドバスカーズ川口	7枚	11.音楽センター北部教室B	2枚
3.四葉のクローバー	11枚	12.トリオ「朝は・・・」	9枚
4.千葉カルテット	5枚	13.KAC36	10枚
5.スフル・スフレ	16枚	14.のりゆみ	27枚
6.SAGOB	2枚	15.May June	3枚
7.音楽センター北部教室A	2枚	16.カルパ男組	3枚
8.H&M	5枚	17.Memery	26枚
9.金曜の風	10枚		

バンド/アンサンブルの部(プログラム順)

1.この指とまれ	10枚	7.フレンズドリーム	3枚
2.ばっは亭	18枚	8.五月の風	6枚
3.アコシャク	8枚	9.おばあちゃんとゆかいな仲間たち	14枚
4.いわし	8枚	10.アミーゴ	12枚
5.KRUG	8枚	11.プチ・マルカート	19枚
6.ぼん・ぼことE&K	10枚		

合奏の部(プログラム順)

1.音楽センター東部教室	8枚	11.川越アコーディオンサークル たんぼぼ	26枚
2.ウインドバスカーズ	4枚	12.アコ・神奈川合同	3枚
3.音楽センター南部教室	6枚	13.風のアンサンブルA	27枚
4.ともしびアコーディオン合奏講座	4枚	14.東京アコーディオンアンサンブル	61枚
5.音楽センター三多摩教室	11枚	15.アンサンブル小川	8枚
6.音楽センター中部金曜教室	10枚	16.音楽センター中部土曜教室	14枚
7.55アコーディオンサークル	3枚	17.東京アコーディオン研究会	12枚
8.風のアンサンブルB	41枚	18.横浜アコーディオン愛好会	7枚
9.音楽センター北部教室	3枚	19.関東アコアンサンブル	15枚
10.アコーディオンカルパッチョ東部	10枚		



最後まで残って結果と講評を聞く客席の様子



返却される譜面とメッセージカード整理の様子



受付の様子



楽器修理コーナー



CD, 楽譜など展示販売コーナー▶



◀和紙人形の作品展示、希望者に売られた